

今月の1冊から 2018年1月～3月

1月『鹿よ おれの兄弟よ』

神沢 利子//作 G・D・パウリーシン//絵 福音館書店



ひとりの猟師（りょうし）が鹿（しか）をとるために小舟をこいで川をのぼっていきます。猟師のとうさまやじいさまもこの森で鹿をとり、この森でくらしてきました。夕日が川を金色にそめるころ、とおくの森から牡鹿（おじか）の声。岸边にあらわれたみごとな鹿に猟師は息をのみ見とれ、そして銃（じゅう）を放ちます。しべりあを舞台（ぶたい）にした壮大（そうだい）な叙情詩（じょじょうし）です。ページが進むごとに、きれいな色の細密画（さいみつが）でえがかれた猟師の衣装（いしょう）や神秘的（しんぴてき）なシベリアの森に引き込まれていきます。

2月『だるまちゃんとうさぎちゃん』

加古 里子//さく・え 福音館書店



さむくなってゆきがどっさりつもらいました。だるまちゃんとだるまごちゃんはおおよろこびでゆきだるまをつくりました。そこにうさぎちゃんたちもくわわって、うさぎのゆきだるまやゆきうさぎもつくりました。みんなでなかよくゆきあそびをしていると、だるまちゃんのおかあさんがおやつをよういしてくれました。たくさんのおやつのなかには、りんごでつくったうさぎやだるまもありました。わたしたちのところにもゆきがふってゆきあそびができるといいですね。この絵本にはてぶくろにんぎょうやうさぎのぼうしのつくりかたのものっていますよ。

3月『つなみてんでんこ はしれ、上へ!』

指田 和//文 伊藤 秀男//絵 ポプラ社



2011年3月11日。あの日、もうすこしで5じかん目がおわるころだった。からだグズンともち上がった。じんだ。近くの中学生在がさけんでいる。「にげろー!」「つなみがくるぞー!」小学生のぼくたちは、近くのうら山へにげた。でもここもきけんだった。まっくろい水がもりあがってる。ぼくたちは中学生と手をつないで、せまってくるつなみから必死（ひっし）ににげた。もっと上へ上へはしるんだ! じぶんのいのちをまもるために!! この絵本は、岩手県（いわてけん）釜石市（かまいしし）の小・中学生が東日本大震災（ひがしにほんだいしんさい）の大津波（おおつなみ）から必死に逃（に）げ、みんなで生きのびた体験（たいけん）を基（もと）にしたお話です。“つなみ てんでんこ” これは、東北地方の言い伝えで、それぞれがにげて、じぶんでじぶんのいのちをまもるということ。東日本大震災から7年が経（た）った今、記憶（きおく）から薄（うす）れさせないためにも、ぜひみなさんに読んでもらいたいです。